
食人鬼の魔法生活

放浪の焼きそば売り

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

食人鬼の魔法生活

【Nコード】

N9595X

【作者名】

放浪の焼きそば売り

【あらすじ】

主人公が食人鬼になって全力でギャグをする、そんなお話

プロローグ(前書き)

小説初心者です、よろしくお願い致します

プロローグ

「お前死んだから」

「は？」

突然なに言ってくれやがりますかこの屋台に居そうな兄ちゃんはつて、チエーンソー持ってるし。危なっ

「お前は死んだ。これは紛れもない事実だ」

「嘘だと言つてバーニイ」

「キメエ」

ノリ悪いなーこの兄ちゃん。友人できんぞ、彼女できんぞ？

「友人ならゼウスとハデス、アスモデウスがいるが。後妻子いるぞ」
なん……………だと……………！？

その若さで妻子持ちだと……………！？

「いや、俺75億歳」

ウソダー

「神っばいなにかだからな、私は不老不死なんだ。実際はユグドラシルの管理人だが」

か、神……………だと……………チエーンソー持ってる癖に……………

「ああ、神っばいなんかだ。それより自分の状態を確認しないのか？」

状態の確認……………？ぬおっ！？スケてる！？いやんえっch「キメエ」

(? ? ?)

「自分が死んで霊体、つまり魂だけの存在にやっと気づいたか。で、唐突だがお前には転生とやらをしてもらう」

えー……………めんど「強制参加だ」チツ…

「あーつとテンプラ？「テンプレ」そうテンプレ、そのテンプレ乙とやらの特典がつく、感謝はしなくてもどうでもいい」

特典ねえ……………転生自体興味ないし死んだら死んだで“ハイ、終わり

”だし。なーにも願いが……………あ

「俺の元いた世界の家族に幸せをやってくれ」

「まだ叶えられる数を言っていないのだが……まあいい、それは入れないでおこう。ああ、それと叶えられる数は5つだ」

「びつみよーな数だなー、んー……よし、1つめ決まり」

「ありとあらゆるモノを喰らう能力をくれ」

「トリコに行ったら途中で自分が狙われそうな能力を選んだな。鳥を食えば鳥に変化できるようになり、犬を食えば犬に変化。ふむ、魔力喰らいも入れておくか。あと気喰らいも」

「その魔力喰らいと気喰らいってどんな能力なんだ？」

「ズバツと言うと喰った相手の魔力、気を自分のものにできる能力だ。喰ったやつにのつとられはしないぞ。たとえアンリ？マユ喰ったとしても」

「すげえ……チートじゃねえか……」

「さて、あと4つ残ってるぞ？」

「うん、2つ目と3つ目、4つ目はこれだな」

「家事、俊敏、殺気&配遮断、それぞれA++ください」

「それ、別に一つでいいんだが「もつとチートになれと？」ふむ、ならばいいか。で、最後の願いは何だ？」

「ふっふっふ最後の願いは〜！」

「銀髪褐色美女にしてください」

「は？……そうか男のお前が女にか……くく……くくはははははははは……」

「oh……なんか危なっかCねえ……」

「ふふふ……すまない、少々無様なものを見せたな。ではお前の願い、叶えよう」

「おおーなんか力が湧いてきたー……ん？ちよいまて

「俺の死因と行く世界は？」

「死因か？それはお前がトイレに入ったその時にお前の友人の山田君がジャンプ見ながら「アツカリーン」と呟き不幸にもお前の頭に電球が突き刺さり苦しみながら脳が焼け死んだ。これが死因だ」

山田アアアア！何故ジャンプでアツカリーンって言ったアアアア！
ジャンプ関係ねえじゃねえか！

「それと行く世界だがヒントだけだしてやるう、「百年戦争」「造物主」「自称正義の魔法使い」これだけ言えばわかるだろう？」
「うわっほいネギまでいすか」

「ああ、聞いたらさっさ行け。テンプレで穴を開けておいた。そこに身投げすれば一名様ご案内とやらだ」
「いよいよか、オラわっくわくしてきたぞ」
行くぞ世界よ、食材の貯蔵は十分か？

「ルパーンダーイブ！」
又ポン

.....

.....

.....

「これでよかったのか.....？あ、俺の分霊が魔帆良で焼きそば屋
台売ってるの言い忘れていた...まあ、いいか」

プロローグ（後書き）

訂正しました

第1話「よろしい、ならば戦争だ」(前書き)

小説読む以外家でやることがない……………
宿題？知らんなあ……………

第1話「よろしい、ならば戦争だ」

やあ、主人公だよ現在名前はフェンリルって名乗っている。なぜフェンリルかというとオオカミの娘だからだ。神GJ、いい仕事した。あとどうやら獣になったり、人に戻ったりできるらしい(犬耳と尻尾は消えんが)

獣モードか……ザ？ビースト！できるな。さて、転生したと言っても介入する気はないから“ダイオラ魔法球がここにはないという事実”を喰ってダイオラ魔法球を出現させる。便利だな……あれ、なんか満腹感が？嗚呼、成る程喰ったから満たされたか。次喰う時は胃の許容量が少ないという事実を喰うか。なんて考えながら私(私に変えた)は安全な場所でダイオラ魔法球を使う為に移動を開始した。

キングクリムゾン！

ヒヤッハー、エベレストの頂上についたぜーつか寒ッ！あ、そいや来る途中にトカゲやらイルカやら犬やら猫やら植物やらを放り込んだがどうなってるかな。設定はこっこの1時間。向こうの一年だしさあ、雪で固定しいざ修行なり！

あるえ、俊敏A++で数十時間しかかからなかった筈んだけど……このモハ臭はなんだ。クシャダオラいっぞ、やべえ喰いてえっわけで

「イタダキマス」

結果、惨敗しましたよ。やっぱり最初はブルフンゴか、とか考えていたら

「フゴッフゴ……」

スファンゴか……よし、今度は武器作ったし今夜は牡丹鍋じゃー！
「こんどこそいただきます！」

うめえ、ドスファ　ゴうめえ。あと自分のナイフ捌きに吃驚。自分（人間形態）の倍ある巨大をもの数十秒で捌いたよ。家事A++すげえ。これなら嫁さんに行っても大丈夫だね　……………自分でも引いたわ

あ、つかザ？ビーストすれば武器いらなかったかね！？ぬおおおとおおお制作時間を返せええええええええええ。

ガサッ

ああ？なんだ、私は今機嫌が悪いんだよ。ビーストモードでD　フイールドをつつきつてユニバースすつぞフォルア

……………今のはただの電波だ。とりあえず面倒なので首を540。回して音のした方を見ると。そこには一匹の小さな狼がいた

第1話「よろしい、ならば戦争だ」(後書き)

まだまだ原作にからみません後短い

ぐぬおおおお

修正しました

狐じゃなくて狼だったああああ

第2話 雷狼出現（前書き）

ジンオウガの子供登場です。ヒヤッハ
モンハン小説化してきやがった……
早くネギま分をださなければっ

第2話 雷狼出現

ジンオウガ side

まずいまずいまずいまずい…… 本当にこの状況はまずい。自分が相手を痺れさせるのを出せるからといって猪を狩ろうと思えば猪のいるところに来てみたけど…… 見た事のないヤツが硬そうな細長い石（武器）で猪の長を圧倒していた…… 逃げなきゃ…… 大人になったら対処できるかもしれないけどまだ子供の僕には無理だ…… それにアイツからでてくる威圧感（苛立ち）…… アイツは強い！僕は簡単にやられてしまう！そう考えていた時、アイツの姿が目の前にあった

ジンオウガ side end

フェンリル side

おお…… この子はジンオウガちゃんじゃないか…… ドスどまりだと思っていたがガードがでるとは…… しかし何故この子は怯えてるんだ……？

まあいいか、餌付けすりゃ懐くだろ

そう思い私はジンオウガ（幼体）に肉を持って近づいた。

フェンリル side end

ジンオウガ side

アイツが目の前にいる。アイツが体の一部を向けてくる、もうダメだ。そう思った。だけどきたのは頭を触られる感触だった。

……？？？ これに何の意味があるんだ？でもこうされるとなんだか気持ち良い……

ジンオウガ side end

フェンリル side

あらま、この子目え細めちゃって…… かわいいじゃねえかつ！

尻尾もブンブン振ってる…… やべえお持ち帰りしたい…… ずつとなでなでしているとジンオウガがハッ！（。A。）とした表情を

して後ろに飛びのいた。

グルグル唸っているが肉を背中からチラつかせると尻尾をパタパタさせている……ふっ……食事の後は修行しようと思ったが……予定変更！このジンオウガの人に变化できないという事実を喰ってやる！！

……喰い過ぎで腹痛くなりそうだな

フェンリル side end

side out

フェンリルは肉を地面に置きジンオウガをこっちにくるように誘った。だが警戒しているためチラツと肉を見て尻尾を振るがフェンリルを見てまた唸ってしまう。

フェンリルはしょーがないと呟き、ジンオウガの人になれないという事実を喰らった。

ジンオウガ side

アイツが何か喋って立ち上がり、口を開けて閉じたと思ったら。自分の体が変わっていた。びりびりするのは相変わらずだせるけど、後ろ足が異常に伸びていて、バランスがとりづらい。

アイツは目を細めて笑っていた。

「後ろ足で歩けるよ」

アイツが言った言葉を理解できた。何で？考えているとアイツが僕の体を抱きしめていた。

ジンオウガ side end

フェンリル side

わーかわいいー。しかも男の子なんだー。(人格が完全に女性化したフェンリル

ぐふふ……シヨタデリシャス……じゅるり。そう思っていたらあの子の肩が揺れた。手足をぶるぶるさせて……。

「後ろ足で歩けるよ」思わずアドバイスしてしまった。だがジンオウガはキョトンとして動かなかった。私は我慢出来ずジンオウガを抱きしめた。

いただきます。

フェンリル side end

ジンオウガ side

アイツに抱きしめられて数秒経つたと思ったらアイツの鼻息が荒くなり僕は地面に押し倒された。え、ちよ何この状況。さっきから知識として頭に入ってるけど分からない言葉がいつぱい出てくる。現実逃避をしているとアイツの顔が近づき、僕の唇とアイツの唇がくつついた。その後のことは覚えてない。

ジンオウガ side end

第2話 雷狼出現（後書き）

今回も短いです。ネギまは一体いつになったらでてくるんだ……

第3話 雷狼が仲間になった(前書き)

主人公は変態シヨタコンだったという事実。大人になったらどうす
んでしょかね。そんなことより胃が焼けつくように痛いです

第3話 雷狼が仲間になった

ジンオウガの子供襲った後、フェンリルは悩んでいた。

「（本能にまかせてやっちゃった……。このごどーしよう……。）」

隣を見るとジンオウガ（子供）はすやすやと寝ている

「（ああもう可愛いな）」

そう思いジンオウガ（子供）の首に顔を近づけて、首筋を舐める。

するとくすぐったかったのかジンオウガ（子供）は体を一瞬震わせ、目を開けた。両手を伸ばしあくびをしている。

数秒してこちらに気づいたのか警戒するがその警戒は一瞬で消えた。

「おはよう」

「……………おはよう」

返事にしばらくかかったがそこは気にしない。

「どうして一人でいたの？」

フェンリルが問いかけた。

「……………親とはぐれた。」

「そつ、なら一緒にくる？」

「……………」

「……………うーん」

さて、どーしよう。

……………あ、ちよつちやってみようかな

「そついえば昨日の夜は激しかったな」

「……………？ ツ！？／／／」

「私の方から襲ったのに主導権とられちゃったよ」

「……………／／／／／」

「おかけで壊れちゃいそうだったな？」

「……………／／／／」

ジンオウガ（子供）が涙目になってこちらを睨んでくるが、身長が

足りないため目遣いになる。

「（可愛いなあもう！）責任とってくれないかな？」

「……………く」

「ん？」

「行く！…！ついて行く！…！」

「よし、じゃあ行こう。まずは服を着て準備しよう　ところで君の名前は？」

「名前、ない」

「……………そっかじゃあつけてあげる。今日から君の名前は……………今日からお前は富士山だ！！」

「（……………なんか変な電波が。うーんでも名前どうしよう。

ジンじゃ普通過ぎるしライでもなあ……………。よし、決めた。）君の名前はスレイル。神話でフェンリルを拘束したスレイプニルの内、数字文字をつかわせてもらったよ。」

「スレレル……………」

「そ、スレレル。君の名前。さ、準備しよっか」

「……………うん！」

キングクリムゾン！！！！

「よし、準備出来たし、外にでて魔法世界に行くぞー！」

「まほうせかい？」

「そ、魔法世界。今は確か戦争中だけど魔法を覚えといた方がいいからね。」

「ふーん……………」

さあ、いざいかん「魔法世界（ムンドウス？マジクス）」へ！」

「お……………」

第3話 雷狼が仲間になった（後書き）

あああ、相変わらず短い。

次でなぎつちよがでできます。フェンリルはゼクトやタカミチをみてどうなるんでしょうか（笑）

修正しました。グレイプニルってなんじゃあああああああ！！

第4話 紅き翼との接触（前書き）

テストエ……………20点とつちまった……………
今回も妄想と集中力が続くまで書き続けます。

るシヨタ二人。

うわあ……混沌だ……だが！私はカオスマンバーにつっこむという苦行をやったのけよう！私がそこにいる理由！そこにシヨタがいるからだ！

気配を完全に消し目標をセンターに合わせてシュバツ！！今の私は獲物を狩るハンター（変態）！今の私に不可能はない！！

まずは一人目じゃああああ！！

「……………さんもうちょっと静かにした方が……………みぎゅツ!?」
「敵襲か!?」

side out

スレイルside

フェール足速い……………全力をだせば追いつけるけど……………

見失っちゃったけど匂いで捜せばいいや……………ん、こっちだ……………

ようやくフェールを見つけたと思ったら僕じゃない別の子に頬擦りしていた。

むう……………

side out

「むう……………」

その言葉で全員我に返った。いや、一人を除いて全員我に返った。

その一人は言わずもがなフェールである。

「おい、てめータカミチになにしてやがる!!」

「そうだぜ嬢ちゃん、離れた方がいいぜ。それと坊主、俺と代われ」

「やっているのは抱きつき攻撃、それと筋肉ダルマには抱きつきたくない」

そりゃ残念、とラカンが言っているがそこまで残念そうではない。

「あああ、あのツ！は、離してください!!」

「焦るところも可愛い……………ん?」

「……………」

「……………」

ガシィッ!

第4話 紅き翼との接触（後書き）

やっとナギ達出せた……更新遅くなったのは夜中書いてたら寝てしまいきていた時にはd sの充電が切れていてやる気がでなかったからです。ちよ、石とかミヨルニルを投げないで……

主人公とスレイルの設定（前書き）

タイトルのまんま主人公sの設定です

最近友人からpsp借りました

友人との間柄は

私「青いお空がほしいのよ」

友人「飛ばしてごらん」

私と友人「シャボン玉」

こんな感じです

主人公とスレイルの設定

とりあえず fate 風に

名：フェンリル

筋力：C +

耐久：C

対魔力：B

魔力：A -

俊敏：A + +

幸運：B +

保有スキル

気配 & amp; 殺気遮断 A + +

文字通り気配と殺気を完全に消すスキル。俊敏と掛け合わせれば直感 A 以上あるもの以外太刀打ちできない。

家事 A + +

家でやることはなんでもござれ、料理、掃除に洗濯に接客接待、ほんとになんでもござれ

捕食 A + +

相手を喰らい己の糧とするスキル。

概念も喰べることが出来るのだから正にチート。世界は私で回っている。

もし fate の世界に行くとしたら……

クラス 食人鬼^{イーター}

筋力 C

耐久 C

魔力 B +

対魔力 B -

俊敏 A ++

幸運 B

クラススキル

捕食 A ++

ゲイ？ボルクなどの概念は真名解放がされていない状態ならば食べる事ができる。

無論「くがここにはない」という事実も喰べることが出来無い。

吸収 B +

喰らったものを己が魔力に変換し、魔力を回復させる。マスターがいなくとも人や木等を週に三、四回喰べれば現界しつづけることができる。

保有スキル

家事 A ++

家事だつたらなんでもできる。目指せメイド長。

召喚 C +

己の伴侶たる雷狼を召喚。ただし召喚した後戦闘が終わればイチヤつく。

宝具

「食い散らかす食欲の罪」グラトニー A ++

対人宝具

見た目は巨大な鎚だが、殴る所に狼を真正面から見た顔の絵柄がついており、殴った相手のステータスのどれか一つをワンランク減らし、自分に吸収する。だが筋力Cのため当たる確率は低い。

「神喰らう悪食の狼王」フエンリル A ++

対人宝具

相手の足元から巨大な狼の頭を召喚し、対象を喰べる宝具。

対象の神性が高い程威力が上がる。

直感B以上、もしくは幸運A以上ないと避けることは難しい。

「闇よりの侵食」おまのいわい C

対人宝具

自分の体を隠し、気配察知に長けたものでさえ認識できなくさせる。

次はスレイル

名前 スレイル

筋力 D

魔力 E

耐久 D

対魔力 C

俊敏 B

幸運 B

武具は無く雷を纏い素手で戦う……予定。

多分対戦時は雷を放出して自分の身を守るぐらいしかできないかと

……

名 スレイル（成長（予定））

筋力 A

耐久 B

対魔力 C+

俊敏 A

幸運 B

こんな感じにする予定です。

因みにフェールの身長は163cm、幼スレイルは135cm。大

人スレイルは195cm。

主人公とスレイルの設定（後書き）

……本文よりこっちの方が読むのに時間かかるような気がする……

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9595x/>

食人鬼の魔法生活

2011年11月6日03時07分発行